

群 教 七	H01 - 01
	平28.261集
	幼児教育

友達と関わって遊ぶ中で、自分の思いや考えを言葉で伝え合える幼児の育成

—心を動かすような体験を共有できる遊びを通して—

特別研修員 我満 直子

I 研究テーマ設定の理由

現在の社会では、少子化が進み、核家族が増え、過保護や過干渉の中で育っている幼児が増えていると言われている。また、必要な言葉を言わなくても周りの大人が気持ちをくみ取ってくれるために、自分の思いや考えを伝えなくても物事が済んだり、自分が要求しなくても活動が進んだりしていく傾向がある。一方、幼稚園に入園し、同年齢の幼児との集団生活が始まると、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えることが必要になってくる。

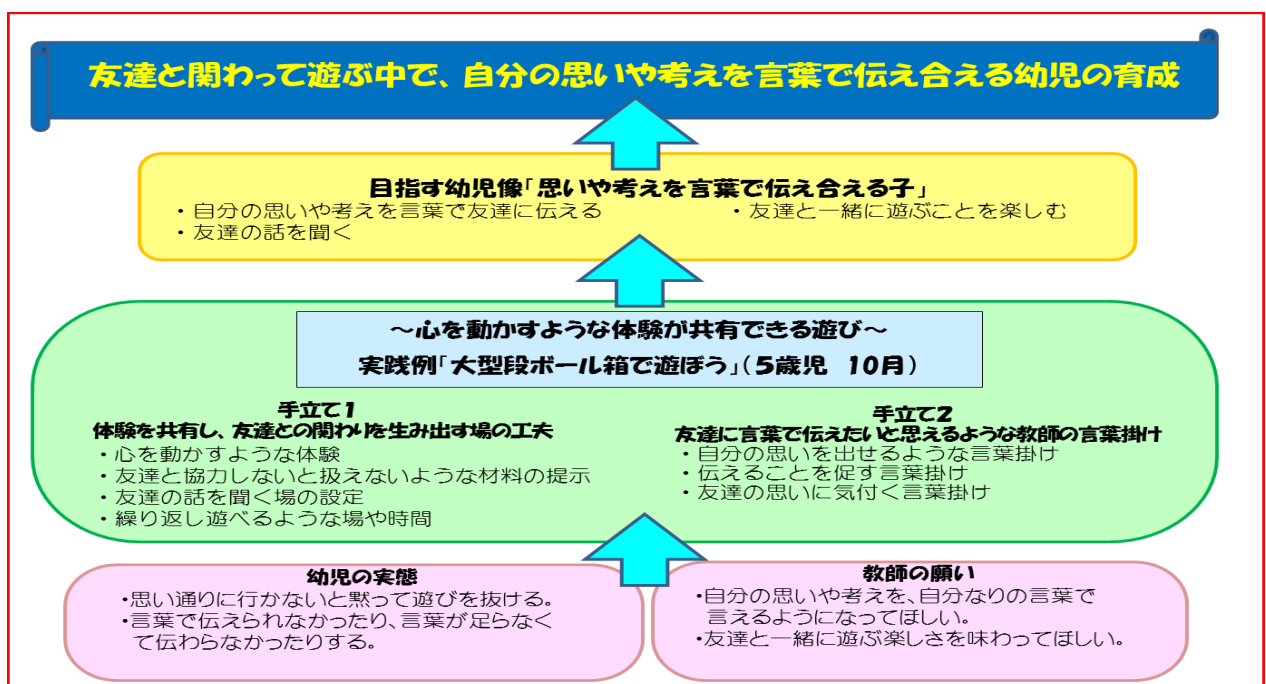
本学級の幼児の実態を見ると、教師には自分の思いを伝えられるが、友達には伝えようとしなかったり、自分の気持ちや考えを通そうとして強い口調で話し、思い通りにいかない黙って遊びの仲間を抜けたりするためにいざこざになる様子が見られる。また、自分の気持ちを言葉で友達に伝えられなかったり、言葉が足りなくてうまく伝わらなかったりする幼児もいる。このような幼児が、自分の思いや考えを言葉で伝え合うようになるためには適切な環境の構成と教師の援助が必要であると考えます。

幼稚園教育要領解説 第2章 4 言葉の獲得に関する領域「言葉」の内容(2)には、「幼児は、生活の中で心を動かすような体験をしたときに、それを親しい人に言葉で伝えたい」と記されている。本研究では、心を動かすような体験を、「楽しい」「おもしろい」「やってみたい」などの感動ができる体験と捉えた。

そこで、幼児が自分の思いや考えを言葉で伝えるようになるためには、心を動かすような体験を共有できる遊びの設定と、幼児が自分から思いや考えを友達に言葉で伝えられるような教師の言葉掛けが必要であると考え、研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 保育改善に向けた手立て

幼児が自分の思いや考えを言葉で伝え合いながら遊ぶようになるためには、心を動かすような体験を共有できる遊びの設定と、幼児が自分の思いや考えを友達に言葉で伝えたいと思えるような教師の言葉掛けが必要であると考えた。「心を動かすような体験を共有できる遊び」とは、幼児が思わず遊びたくなるような教材を使って友達と関わりが持てる遊びと捉え、次のような手立てを講じた。

手立て1 体験を共有し、友達との関わりを生み出す場の工夫

- ・心を動かすような体験を共有できる遊びを設定する。
- ・友達と協力しないと扱えないような材料を提示する。
- ・友達の思いや考えに気付けるように、友達の話を聞く場を設定する。
- ・繰り返し遊べるような場や時間を保障する。

手立て2 友達に言葉で伝えたいと思えるような教師の言葉掛け

- ・幼児が安心して自分の思いを出せるような言葉を掛ける。(例：受け止める・引き出すなど)
- ・友達に言葉で伝わる喜びが感じられるように、幼児の言葉を補ったり、伝え方を教えたり、伝えるように促したりする言葉を掛ける。
- ・幼児の自己主張を認めつつ、相手にも思いや考えがあることに気付く言葉を掛ける。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 幼児の興味や関心、実態と経験を考慮するほかに、身近で親しみがあり発展性のある材料を提示することは、ねらいを達成するために大切であることが分かった。友達と協力しないと扱えないような材料を提示することにより、幼児は「やってみたい」「〇〇を作りたい」「友達と一緒に〇〇したい」などと心を動かし、感じたことを言葉で伝え、友達と言葉でのやり取りが生まれた。また、繰り返し遊べる場や時間を保障したことで、幼児同士の関わりが深まり、自分の思いや考えを伝えることにつながった。
- 教師が、幼児の思いや考えをよく聞いて受け止め、「よく分かったよ。今と同じように〇君にも伝えてごらん」と友達に伝えるように促したり、「〇君はどう思っているのかな」と相手の思いや考えに気付くような言葉を掛けたりすることで、幼児が自信を持って友達に伝えたり、友達の思いや考えに気付いたりする姿につながった。このような遊びを経験したことで、生活のいろいろな場面で、自分の思いや考えを伝えたり友達の思いや考えに気付いたりするなど、伝え合う様子が見られるようになった。

2 課題

- 心を動かすような体験を共有できる遊びは、ほかにどのようなものがあるのか、幼児の発達段階を考慮し、教材や遊びを精選する必要があると考える。また、年間指導計画に位置付け、計画的に取り入れていく必要がある。
- 幼児が要求する前に教師が先回りして教材を提供したり、教師が必要以上に言葉を掛けたりすることで、幼児が自分の思いや考えを伝え合う機会を無くしてしまうこともある。今後は、自分の思いや考えを言葉で伝えるだけでなく、友達の思いも受け入れて協同して遊ぶ幼児の育成を目指し、教材の選び方や提示の仕方、教師の関わり方を工夫していきたい。

実践例

1 活動名 「大型段ボール箱で遊ぼう」（5歳児・10月）

2 本活動について

1学期には、幼児は廃材を使って自分のイメージした物を作ったり、遊びに必要な物を作ったりすることを楽しんでいた。また、大型積み木やソフト積み木などを組み合わせて基地や家、風呂、船などを作り、気の合う友達と一緒に遊ぶ姿が見られた。夏休み明けには、幼児のアイデアを基に段ボール箱などを使って運動会に必要な物を作った。

本時は、大きな段ボール箱を提示することで、このような経験を経た幼児はそれを基地や家などに見立てたり、つなげて迷路にしたり、ジャングルジムと太鼓橋などの遊具をつなげたりしながら、友達と関わって遊ぶものと考えられる。幼児が入れるような大きな段ボール箱を用いることで、幼児は心を動かし、遊びのイメージが膨らみ、「○○を作りたい」「○ちゃんと一緒につなげたい」などと友達に自分の思いや考えを伝えたり、友達の話の聞いたりする姿につながると考える。以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

(1) 研究に関わる5歳児の教育計画

期 月	X I		X II		X III			X IV		X V		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
発達の 過程	・思いを伝えたり、相手のことを受け止めたりして、グループで楽しく遊ぶ。				・友達関係が深まり、自分たちで活動を進めていく。 ・友達と共通の目的に向かい、協力し合って遊ぶ。					・共通の目当てや見通しを持って、協力しながら遊びを進める。		
テーマと 関わる 幼児の姿	・友達と一緒に、試行錯誤して遊びを楽しむようになる。 ・思いや考えを伝えたり相手の思いや考えに気付いたりするようになる。				・出来事や経験したことを伝えたり、友達から聞いたり、比べたりするようになる。 ・遊びの目的を持ち、考えたり工夫したりするようになる。					・互いのよさを認め合ったり、頑張ったことを一緒に喜んだりしながら遊ぶようになる。		
研究に関 わる活動	・石けんクリームで遊ぼう				・大型段ボール箱で遊ぼう					・劇場ごっこをしよう		

(2) 事前の活動→本時の活動→事後の活動

	ねらい	伸ばしたい資質・能力	幼児に経験させたい内容
事前	・友達と一緒に、段ボールなどを使って遊びに必要なものを作ることを楽しむ。	・自分のイメージしたものを言葉で表現する力。	・運動会への活動の中で、大型段ボールで大きなプレゼントを作る。 ・段ボールカッターを使って、切る。
本時	・自分の思いや考えを言葉で友達に伝えたり、友達の話の聞いたりする。	・自分の思いや考えを友達に言葉で伝える力。	・大型段ボールで友達と一緒に基地や家、迷路などを作って遊ぶ。
事後	・自分の思いや考えを言葉で友達に伝えたり、友達の話の聞いたりし、相談しながら遊ぶ。	・友達の話の聞く力。	・年中児や年少児を自分たちの作った基地や家、迷路などの遊びに誘ったり、ごっこ遊びを一緒にしたりする。

3 本時及び具体化した手立てについて

幼児が自分の思いや考えを言葉で伝え合いながら遊ぶようになるためには、友達と一緒に心を動かすような体験を共有できる遊びの設定と、幼児が自分の思いや考えを友達に言葉で伝えたいようになるような教師の言葉掛けが必要であると考えた。

手立て1 体験を共有し、友達との関わりを生み出す場の工夫

- ・心を動かすような体験を共有できる遊び（大型段ボール箱で遊ぼう）を設定する。
- ・友達と協力しないと扱えない大きさの大型段ボール箱を、幼児の目に付くように始めは保育室に設定する。
- ・友達と十分やり取りができるように時間や場の保障をする。
- ・友達の思いや考えに気付けるように、友達の話を聞く場を設定する。

手立て2 幼児が自分の思いや考えを言葉で伝えたいと思えるような教師の言葉掛け

- ・幼児が安心して思いを出せるように共感的に受け止める言葉を掛けたり、「どうしたら〇〇になるかな？」など幼児の考えを引き出すような言葉を掛けたりする。
- ・友達に言葉で伝える喜びが感じられるように、促したり認めたりする言葉を掛ける。
- ・うまく言葉にできない幼児に対しては、「どうしたの?」「どう思う?」などと返して幼児の思いや考えを確認した上で、伝え方を教え、友達に伝えるように促す言葉を掛ける。
- ・相手にも思いや考えがあることに気付けるように「〇ちゃんにいい考えがあるんだって」「みんなも聞いてみよう」などと言葉を掛ける。

4 保育の実際

(1) 事前の活動（環境の構成・教師の援助の工夫・幼児の姿）

運動会に向けた活動の中で、段ボールカッターを使って大型段ボール箱を切り、びっくり箱やキャタピラを作った。でき上がったキャタピラで実際に遊んだり、びっくり箱に幼児と一緒に模様を付けて大きなプレゼントに見立てたりして、運動会当日に保護者と一緒の競技で使用した。

(2) 本時の活動

ねらい	自分の思いや考えを言葉で友達に伝えたり、友達の話を聞いたりする。
環境の構成と教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の目に付くように、保育室に大型段ボール箱（自転車の箱1個・冷蔵庫の箱1個・ボックスティッシュ60個が入っていた箱2個）を提示しておく。 ・他学年の幼児にも言葉で伝えられるように、他の担任と打ち合わせをしておく。
○幼児の姿	
事例1〈自分の思いを伝えている場面〉 ○J児は運動会で行ったびっくり箱を作り、入ったり出たりして遊んでいる。 J児：「自分が箱に入ってしまうと、誰も呼びに行けない」 教師：「本当だね。じゃあ、Kちゃんに頼んでみたら？」 J児：「Kちゃん、閉めたら誰か呼んで来てくれる？」（図1） K児：「いいよ。」 教師：「Jちゃんの思いが伝わって、よかったね」 ○年中児2人が、担任と一緒に年長の保育室に来たところにJ児が出くわしたので、J児が思いを伝える場面を作る。 J児：「びっくり箱を作ったから、遊びに来て」（図2） 年中児：「いいよ。他のみんなも誘ってこないかな」 ○J児は年中児の保育室に行く。 年中児：「Jちゃんが、話したいことがあるんだって」 J児：「遊戯室でびっくり箱をやっているのだから来てください」 年中児：「行きたい！」 J児：「いいよ。みんな来ていいよ」 ○J児は担任に伝えに来る。 J児：「先生、もも組さん（年中組）を呼んで来たよ」 教師：「Jちゃん、すごいね。みんな、Jちゃんがもも組さんをお客さん呼んで来たよ。お客さんがいっぱい来たよ」	・教師の見取り ★援助 ◎言葉掛け ・大型段ボール箱を見て運動会で行ったびっくり箱のイメージにつながったのだろう。 ◎気の合う友達の1人であるK児にはJ児も伝えられると考え、K児に伝えるように促す言葉を掛けた。 ◎褒める言葉を掛けることで、他の友達にも伝えるようになると考えた。 ★J児が年中児に言えるようにJ児の実態を年中担任にも伝えておいた。 ◎年中担任は、J児が話し出すきっかけになるような言葉を掛けた。 ・J児は誰かにお客さんになって欲しいという思いがあったのだろう。 ◎J児が1人で年中組に行き、自分の思いを伝えてきたことを認め、自信につながるように周りの幼児にもJ児のよさを具体的な言葉で伝えた。

呼んでくるから待ってて



誰か呼んで来て!




図1 友達に自分の思いを伝えている場面

びっくり箱に遊びに来て!



うん! いいよ

図2 年中児を遊びに誘っている場面

○幼児の姿	・教師の見取り ★援助 ◎言葉掛け
<p>事例2 〈互いの思いを伝え合っている場面〉</p> <p>○N児・H児・L児は、段ボールのトンネルを立たせようとする。</p> <p>N児：「先生、ガムテープで貼ってみればいいかな」</p> <p>教師：「そうだね。H君やL君にも言ってみれば？」</p> <p>N児：「みんなで、ガムテープ貼ってみようよ」（図3）</p> <p>H児：「うん、やってみる」</p> <p>N児：「おかしいな。やっぱり、ダメだね」</p> <p>L児：「蓋を開けてみれば…」と、つぶやく。</p> <p>教師：「L君がいい考えがあるんだって。聞いてみよう」</p> <p>L児：「段ボールの蓋を開けて箱みたいにするのはどうかな」</p> <p>○迷路の最後の部分の蓋を開めると、段ボール箱は立った。</p> <p>N児：「でもさ、蓋を閉めちゃったらどうやって出るの？」</p> <p>教師：「そうだね。みんなは段ボールを立たせたいんだよね？前に基地を作った時に使った積み木はどうかな」</p> <p>3人：「うん！それいいかも。やってみよう」（図4）</p> <p>3人：「やったあ。立った！もっと持って来よう」</p> <p>○楽しかったことや次にやりたいことについて話し合う（図5）。</p> <p>○どの幼児も楽しかったことや明日やってみたいことなどを、自分の言葉で伝えることができた。また、最後まで友達の話をよく聞き、分らないことを質問する様子が見られた。</p>	<p>★3人で考えを出し合えるよう、遊びの仲間に加わって様子を見守る。</p> <p>◎自分の考えを友達に伝えるように促す言葉を掛けた。</p> <p>・普段は自分の思いや考えを伝えようとしないL児だが伝えたいようだ。</p> <p>◎L児が友達に話すきっかけになる言葉を掛けた。</p> <p>・L児のアイデアを取り入れ、試してみたが、うまくいかないようだ。</p> <p>◎以前、遊んだことのある大型積み木に気付けるように言葉を掛けた。</p> <p>◎全員が自信をもって話せるように、インタビュー形式で言葉を掛けた。</p> <p>◎「明日はどうしたい？」などと尋ねることで、やってみたいことを言葉で表現できるようにした。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="260 1077 477 1220">  </div> <div data-bbox="624 1077 882 1220">  </div> <div data-bbox="1038 1077 1318 1220">  </div> </div>	<p>図3 考えを出し合う場面</p> <p>図4 積み木を置いている場面</p> <p>図5 友達の話聞く場面</p>

(3) 事後の活動（環境の構成・教師の援助・幼児の姿）

遊びに使っていた大型段ボール箱を園庭に出すとともに、必要に応じて新しい大型段ボール箱を提示したことで、友達同士で話し合い、段ボールカッターで切って家にドアや窓を作る姿が見られた。また、教師も一緒に遊びながら仲立ちになり、異年齢児とも関われるようにしたことで、遊びが広がっていった。さらに、固定遊具とつなげて基地に見立てる姿も見られ、1ヵ月ほど遊びが続いた。

5 考察

幼児の目に触れるように登園時に大型段ボール箱を保育室に提示したことや、友達との関わりが生まれるように提示する数を調整したことで、友達との関わりが生まれ、「みんなで遊ぼう」「○○作ろう」「～にしない？」など、言葉でのやり取りを引き出すことができた。また、自分の思いや考えを出したり友達のイメージを聞いたりし、試行錯誤しながら遊ぶ場面が見られた。教師が、幼児の思いを引き出し友達に伝えることを促したり、相手の思いに気付けるような言葉掛けをしたりすることで、幼児は友達に思いや考えを言葉で伝えたり、友達の話を知ろうとしたりする態度につながったと考える。

友達の話を知る場面では、楽しかったことを中心に全員の幼児が話せるようにしたことで、どの幼児も自分の思いを話すことができた。教師が「明日はどうしたいの？」「どんなところが楽しかった？」などと聞き、伝え方のモデルを示したことで、次第に幼児同士で伝え合う様子が見られるようになった。幼児は自分の思いや考えを話すことでイメージが明確になり、遊びに対する意欲につながり、教師がいなくても、幼児同士での話し合いができるようになってきた。さらに、自分の思いや考えを話すことだけでなく、友達の話を知ることもできたことについて、教師が認めて褒める言葉掛けを繰り返すことが大切であると考えた。